

オリンピックに関する調査(17年7月)【自主調査】 — 報告書 —

2017/08/31

Rakuten Research Inc.
<http://research.rakuten.co.jp/>

I . 調査概要

I . 調査概要

調査目的	今回の調査の目的は、2020年に東京で開催されるオリンピック/パラリンピックについて、以下の点を把握することにあつた。 <ul style="list-style-type: none">・ オリンピックに関する意識や興味・競技についての意識の変化・ パラリンピックに関する意識や興味・競技についての意識																																
調査地域	全国																																
調査手法	インターネット調査																																
調査対象者	【性別】 男女 【年齢】 15～69歳																																
対象者数	2400サンプル <本調査割付> <table border="1"><thead><tr><th></th><th>10代</th><th>20代</th><th>30代</th><th>40代</th><th>50代</th><th>60代</th><th>計</th></tr></thead><tbody><tr><th>男性</th><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>1200</td></tr><tr><th>女性</th><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>1200</td></tr><tr><th>計</th><td>400</td><td>400</td><td>400</td><td>400</td><td>400</td><td>400</td><td>2400</td></tr></tbody></table> <p>※各回、人口推計比に準じて、性別×年代×地域別にウェイトバック集計を行った。</p>		10代	20代	30代	40代	50代	60代	計	男性	200	200	200	200	200	200	1200	女性	200	200	200	200	200	200	1200	計	400	400	400	400	400	400	2400
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計																										
男性	200	200	200	200	200	200	1200																										
女性	200	200	200	200	200	200	1200																										
計	400	400	400	400	400	400	2400																										
実施期間	初回調査:2013年10月11日(金)～10月15日(火) 第2回調査:2015年2月27日(金)～3月3日(火) 今回調査:2017年7月21日(金)～7月25日(火)																																
実施機関	楽天リサーチ株式会社																																

Ⅱ. 対象者プロフィール

Ⅱ. 対象者プロフィール

性別

(%)

	(n)	男性	女性
全体(2013年)	(2,400)	50.1	49.9
全体(2015年)	(2,400)	50.2	49.8
全体(2017年)	(2,400)	50.4	49.6

年代

(%)

	(n)	10代	20代	30代	40代	50代	60代
全体(2013年)	(2,400)	6.9	15.1	19.5	20.0	17.7	20.9
全体(2015年)	(2,400)	6.9	14.9	19.0	20.5	17.7	21.0
全体(2017年)	(2,400)	7.0	14.5	17.8	21.8	17.6	21.4

居住地域

(%)

	(n)	東京都	その他地方
全体(2013年)	(2,400)	11.1	88.9
全体(2015年)	(2,400)	12.1	87.9
全体(2017年)	(2,400)	12.3	87.7

未婚

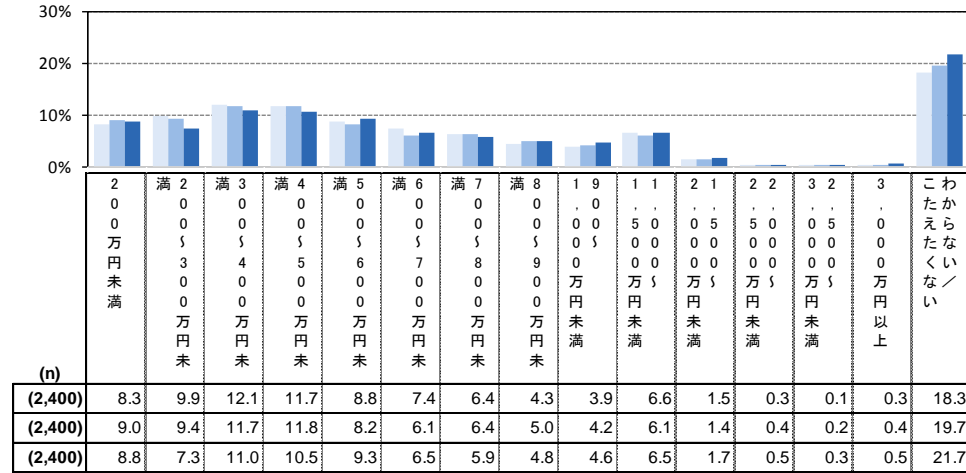
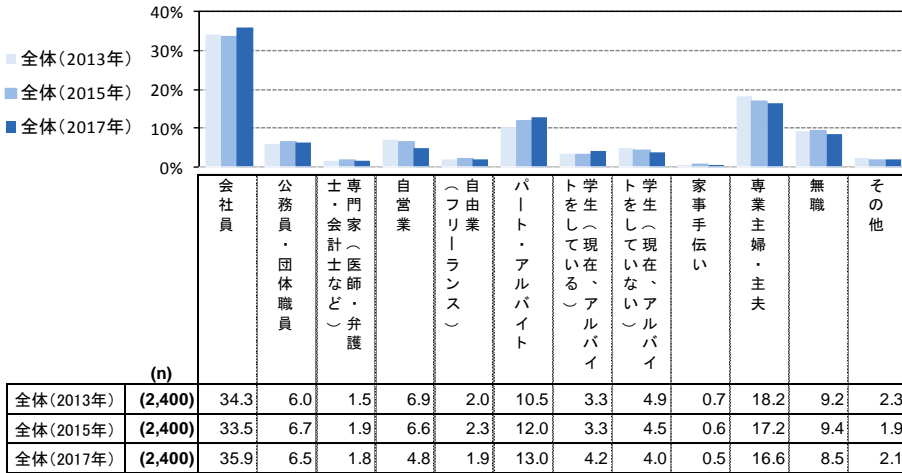
(%)

	(n)	未婚	既婚	離・死別
全体(2013年)	(2,400)	34.6	60.1	5.3
全体(2015年)	(2,400)	35.9	58.0	6.1
全体(2017年)	(2,400)	35.2	56.8	8.1

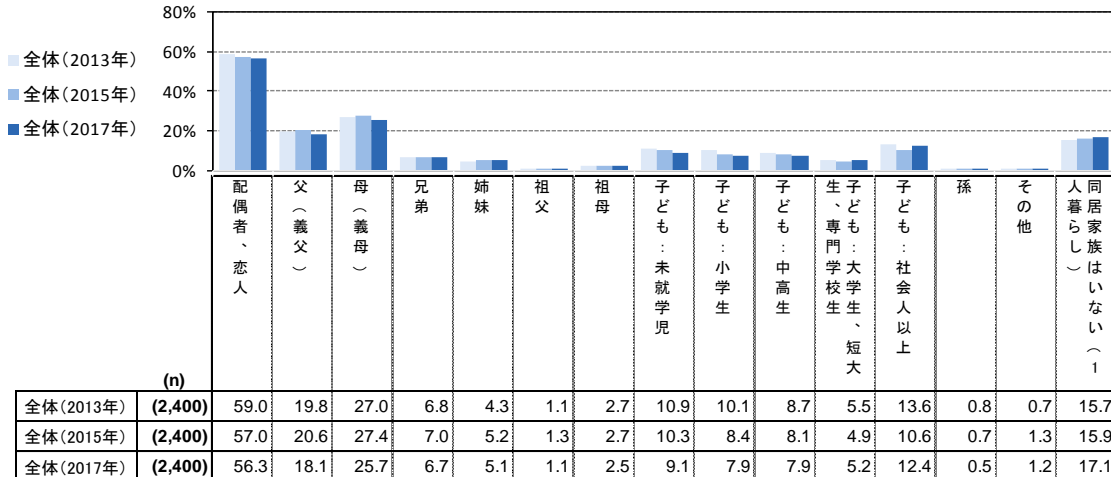
Ⅱ. 対象者プロフィール

職業

年収



同居家族



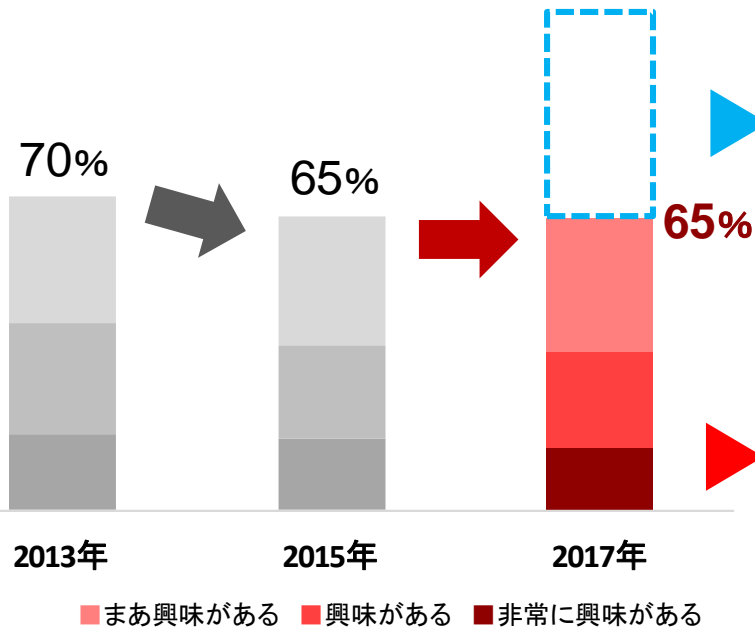
Ⅲ. 調査結果要約

調査結果要約

I オリンピックに対する興味・意識

オリンピックへの興味の推移

- 招致決定直後からは下がったものの、15年の水準を維持。



関心のない理由

- ✓ 関心がない理由として最も多いのは、スポーツを観ないから(40%)。
- ✓ 50代以上では、会場・エンブレムの問題や、JOCが好きでない事を理由として挙げる人も2~3割いた。
- ✓ まだ実感がわからないから、という回答も15%程度。
この層は時期が近づけば関心を持つ可能性が高い。

関心の推移と内容

- ✓ 特に10、20代では興味が伸張。
- ✓ 知りたい情報は依然として開催スケジュール。
50代以上はテレビ中継のスケジュールも気にしている。
- ✓ リオでのパフォーマンスも興味喚起にやや影響が見られた。

生活意識への影響・変化

- ✓ 開催決定をきっかけとして興味が増したのものとしては「オリンピックのマーク」(21%)が最多。
なお震災復興に関しては、やや関心が薄れている。
- ✓ 生活の変化として、27%が「景気がよくなると思う」と回答し、
景気の回復は依然として期待されている。
一方で、治安の悪化への懸念は、時期を追うごとに増している。

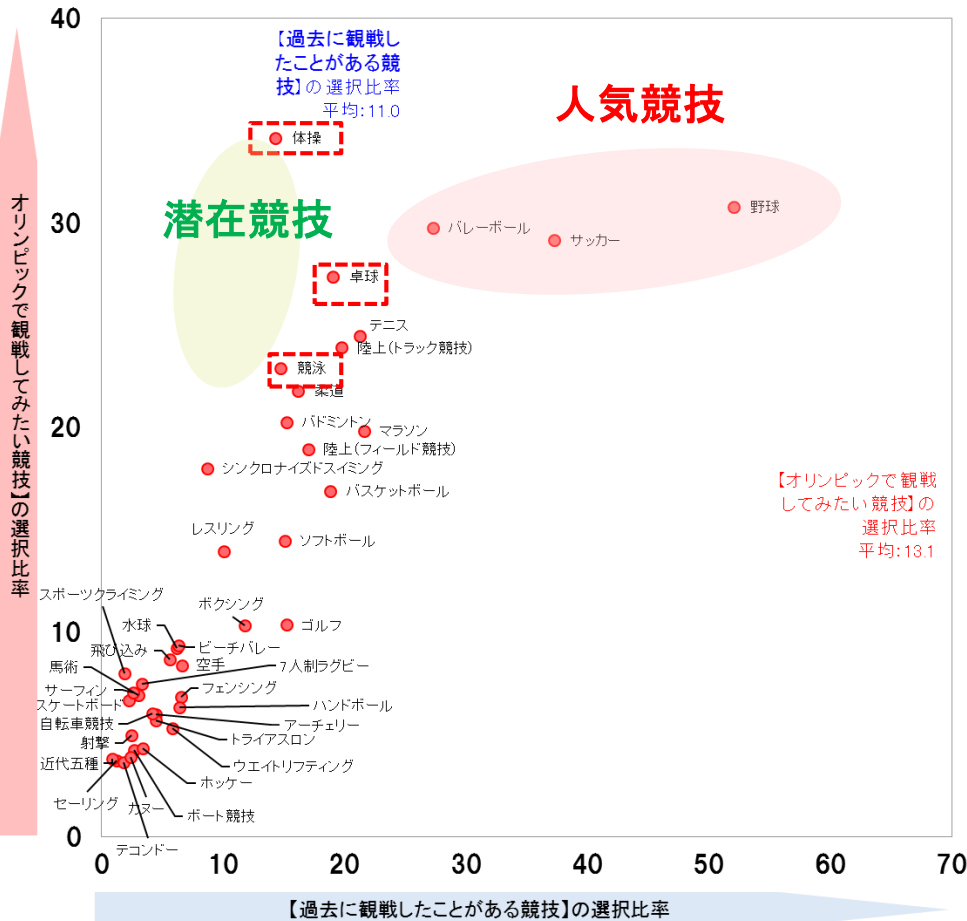
オリンピックの観戦方法

- ✓ 全体で6割以上がオリンピックを「自宅のテレビ等で観戦したい」と回答しており、これが最も高い。特に年代が上がるほどこの傾向が強く、より若い層では「友人・知人宅で集まって」観戦。
世代で観戦の仕方が異なる模様。
- ✓ 東京都の回答者の3分の1程度が「チケットを買って競技場で観戦したい」と回答。

調査結果要約

II オリンピックの競技への意識

- ✓ 競技ごとに見ると、**過去の観戦経験と、オリンピックでの観戦意向は相関が見られた。**中でも、観戦経験も観戦意向も高い「人気競技」と、観戦経験は高くないが観戦意向は高い「潜在競技」には注目すべきと考えられる。
- ✓ 「潜在競技」としては「体操」「卓球」「競泳」など。
これらの競技は注目選手が多いことから、選手への注目に牽引されての人気であると考えられる。
特に「体操」は全体の観戦意向もトップ。(女性や、50代以上の観戦意向が特に高い。)



観戦意向ランキング

順位	競技名	観戦意向
1位	体操	34%
2位	野球	31%
3位	バレーボール	30%
4位	サッカー	29%
5位	卓球	27%

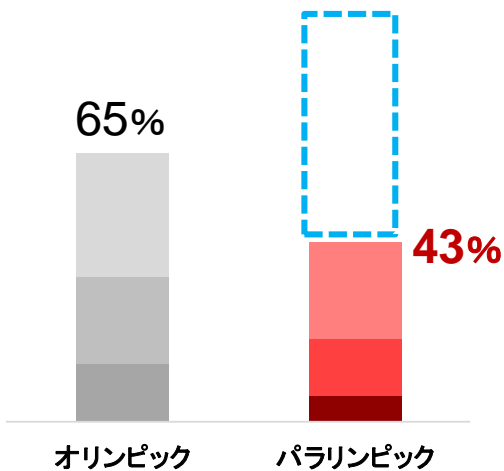
注目している・応援したい選手

順位	選手名	注目率
1位	内村 航平(体操)	4%
2位	錦織 圭(テニス)	3%
3位	白井 健三(体操)	3%
4位	平野 美宇(卓球)	2%
5位	吉田 佐保里(レスリング)	2%

調査結果要約

Ⅲ パラリンピックに対する興味・意識

パラリンピックへの興味



関心のない理由

- ✓ 「選手を知らないから」(30%)、「普段スポーツ自体を観ないから」(29%)。この二つがパラリンピックから興味を遠ざける大きな理由となっている。

関心の特徴と内容

- ✓ オリンピックと比較すると、関心は4割程度とやや低い。
- ✓ 若い年代ほど興味が高く、またオリンピックと異なり女性の関心が男性を上回った。
- ✓ パラリンピックへの興味はオリンピックへの興味と相関あり。オリンピックが盛り上がる事で、パラリンピックも盛り上がる可能性がある。

■まあ興味がある ■興味がある ■非常に興味がある

相関係数:
0.63

パラリンピックへの興味

		非常に興味がある	興味がある	まあ興味がある	どちらともいえない	あまり興味がない	興味がない	まったく興味がない
オリンピックへの興味	非常に興味がある	96	73	70	45	26	10	20
	興味がある	28	159	149	75	70	12	14
	まあ興味がある	17	79	269	169	108	26	47
	どちらともいえない	6	5	37	111	38	14	37
	あまり興味がない	1	12	19	51	68	39	47
	興味がない	1	0	8	13	16	38	35
	まったく興味がない	0	4	6	7	10	14	202

※2,400s中のn数を掲載

パラリンピック競技の認知

- ✓ パラリンピック競技として認知が高いのは「車いすテニス」と「車いすバスケットボール」。両者とも観戦意向が2割を超え高い。
- ✓ どの競技も観戦経験が低い一方で、観戦意向はそれらを上回った。パラリンピックを機に観戦者が増える潜在力はある。

順位	競技名	認知率	観戦経験	観戦意向
1位	車いすテニス	49%	4%	24%
2位	車いすバスケットボール	49%	4%	22%
3位	陸上(トラック競技)	31%	2%	13%
4位	陸上(フィールド競技)	26%	2%	10%
5位	マラソン	25%	1%	9%
6位	パラ水泳	24%	1%	12%

調査結果要約

トピックのまとめ

①オリンピックに対する意識

- 興味は招致決定直後から下がったものの、開催までの時間を考慮すると**今回が底**であると考えられる。35%の「興味のない層」のうち、15%(=全体で5%程度)は、時期が近づけば興味を持つ可能性が高く、少なくとも招致決定直後の水準には自然と戻ることが期待される。(なお若い層の興味は伸びていた。)
- オリンピックによる治安への不安も徐々に高まっている一方で、**好景気への期待もまだまだ高い**。
- 観戦方法は世代によって傾向が異なる。若い層ほど友人・知人と一緒に観戦したいと考えている。
- 特に東京都では、回答者の3分の1程度が「チケットを買って競技場で観戦したい」と回答するなど、実際に来場しての観戦意向が他の地域に比べて高い。

②オリンピックの競技

- 前回の調査でも見られたように、競技の観戦意向は過去の観戦経験と相関が見られた。
- 今後観戦者が増えそうな潜在競技は「体操」「卓球」「競泳」など。これらの競技では、**注目選手が生まれることで、競技の人気を引き上げている様子**である。特に体操は「内村航平」「白井健三」などの選手への注目度が高く、観戦意向も全競技中もつとも高い。

③パラリンピックへの意識

- パラリンピックへの興味はオリンピックをやや下回る。パラリンピック単体のみ興味がある、という人はほとんどおらず、オリンピックへの興味がある人が併せて興味を持っているケースがほとんどであった。**オリンピックが盛り上がる事で、同時にパラリンピックへも興味を持ってもらえる可能性がある。特に若い層や、女性での興味が比較的高い。**
- パラ競技は総じてルールの認知や観戦経験が低いものの、観戦経験はそれを上回っており、パラリンピックが競技に触れるきっかけとなる潜在力が感じられる。中でも「車いすテニス」や「車いすバスケットボール」はその可能性が高い。また、パラリンピックに興味を持たれない理由は「スポーツを観ない」を除けば「知っている選手がいないから」であるので、オリンピック同様、**人気選手が現れれば、競技への関心を高めてくれる可能性はある。**